

もっと
すごい!

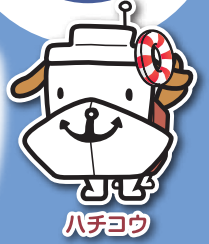
PORT OF HACHINOHE



2025年1月発行

NO.

55



ハチヨウ

ポード博士

八戸港だより

TOPIX

P2・物流2024年問題への取り組み
・みなと通信

P3・八戸セミナー2024開催報告

P4・北米事業 (Bite of Seattle 参加)
・ASEAN事業 (沖縄大交易会参加)

P5・JETRO青森 所長(清川裕志 氏) 寄稿

P6・クルーズ客船の寄港
・ハワイバイヤー招へい商談会

P7・海外経済協力員レポート

P8・航路情報、各お問い合わせ先等



物流 2024年問題 への取り組み

文/八戸市商工課 さかもと あきのり
坂本 晃則

近年、物流を取り巻く環境は、供給網の見直しや燃油等の物価高騰を始め、環境配慮の必要性や情報技術の進展など、コロナ禍前とは大きく変化し、コスト削減や時間短縮といった輸送の合理化がこれまで以上に重要となっています。

特に、2024年4月からトラックドライバーの時間外労働規制が強化された「物流の2024年問題」の影響は大きく、政府の「物流革新に向けた政策パッケージ」によりますと、特別な対策を講じない場合、トラックによる輸送力は、2030年度には34%不足すると推計されるなど、業界全体での変革が求められています。

こうした中、八戸市では、今年度から商工課内に「貿易・物流対策グループ」を設置し、「物流問題」の解決と、交通の結節点である八戸地域の強みを活かした「モーダルコンビネーション」の促進に取り組んでいるところです。

9月30日には、八戸地域の産学官金の関係者にお集まりいただき、「八戸地域物流問題懇談会」を開催し、八戸地域における物流の問題について議論を交わし、市の取組の参考とすることとしています。

今後とも、八戸地域の円滑な物流環境の維持及び将来にわたって発展できる物流網の形成に向け取り組んでまいります。



懇談会で挨拶する熊谷市長



青森県では、脱炭素に配慮した港湾の高度化を通じてカーボンニュートラルポート(CNP)を形成し、脱炭素社会の実現に貢献するための取組を、港湾関係団体、学識経験者等で構成される協議会を通じて、令和6年3月22日に「八戸港港湾脱炭素化推進計画」として取りまとめました。

この計画に定める港湾脱炭素化促進事業の一環として、八戸港管理所では、八戸港内に設置している照明のLED化を進めています。令和22年度(2040年度)までに全ての照明をLED化すると、年間で319tのCO2削減効果が期待できます。

今後も引き続き港湾事業者と連携し、八戸港の脱炭素化を推進します。



八戸大橋(河原木地区方向)

八戸セミナー2024開催

文/八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局員 おおいり み え 大入 美恵

八戸市・八戸港国際物流拠点化推進協議会・八戸市企業誘致促進協議会は、八戸港の利用促進及び当市の立地環境の優位性を首都圏及び中部圏の企業にPRするため、令和6年7月23日に名古屋、翌24日に東京で「八戸セミナー2024」を開催しました。

セミナーには船会社をはじめ、荷主や関係者など延べ449名(名古屋87名、東京362名)の多くの皆様にご出席いただきました。

当日は、熊谷八戸市長から企業誘致や八戸港の利用促進を図るための各施策を紹介するとともに、青森県港湾空港課が八戸港に関する講演を行い、名古屋会場では、中央発條株式会社 執行役員兼中発テクノ株式会社 取締役社長 渡辺圭様から、「八戸発 内製技術で支える競争力」と題してご講演いただき、東京会場では、三菱製紙株式会社 代表取締役社長 木坂隆一様から「三菱製紙八戸工場 持続可能な未来への挑戦」と題して、それぞれ八戸進出の経緯やそのメリット、今後の取り組みについてご講演をいただきました。

東京会場の情報交換会では、八戸港振興協会の澤藤会長による乾杯が行われ、その後、八戸港のコンテナ定期航路サービスの船会社の皆様を紹介しました。船会社をはじめ、荷主事業者や物流関係者など、事業の枠を超えた交流と活発な意見交換が行われ、八戸セミナー2024は、盛況のうちに幕を閉じることができました。

ご来場いただいた皆様をはじめ、ご支援とご協力を賜りました皆様にお礼申し上げます。今後も、このようなセミナーを通じて内外に八戸市及び八戸港をPRして参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



名古屋会場の様子



八戸市・八戸港の施策を紹介する熊谷市長



東京会場の様子



乾杯の挨拶をする澤藤会長

「Bite of Seattle」に出店

～海外販路拡大事業(北米事業)～

八戸市では、八戸圏域の町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)と連携しながら、北米地域を対象とした、圏域の地場産品の販路拡大・開拓に取り組んでいます。2024年度は、アメリカ合衆国、特にシアトル市を中心とした販路拡大支援事業として、「Bite of Seattle(バイト オブ シアトル)」への出店及び現地レストラン等への営業活動を実施しました。

「Bite of Seattle(バイト オブ シアトル)」は、開催3日間で、約45万人が来場する、シアトル市最大級の食イベントの一つともいわれており、現地レストランとの協力で出店した八戸市のブースにも多くの皆様にお越し頂きました。

ブースでは、八戸圏域の農水産品・加工品を利用したメニュー4種類を提供し、来場者からはおいしいという声のほか、健康的であるとの好意的な意見を頂きました。

現地レストランへの営業訪問では、上生菓子的一种である「練り切り」の提案も行い、バイヤーからは味が良いとの意見があったほか、現地でなじみのある和菓子とは一線を画す、新しいジャンルの和スイーツとして、受け入れられる素地があることを確認しました。

文/八戸市商工課 おおいり みえ
大入 美恵



出店の様子



提供メニュー

「12th 沖縄大交易会 2024」に出展

～海外販路拡大事業(ASEAN事業)～

八戸市では、東南アジア等バイヤーとの商談機会を創出するため、海外販路拡大事業において八戸市内の企業3社と「12th 沖縄大交易会 2024」に出展しました。

この商談会は、沖縄県が東アジアの中心に位置する地理的優位性を活かし、国際物流貨物ネットワーク(沖縄国際航空物流ハブ)の構築・拡大を目指す一環として、そのネットワークを活用し、日本全国の特産品等の海外販路拡大を目的に開催する商談会で、今回で12回目となる日本最大級の食の国際商談会です。

例年と同じく、沖縄県宜野湾市の沖縄コンベンションセンターにおいて11/21(木)、11/22(金)の2日間に渡り開催され、サプライヤー255社、バイヤー230社が参加し、その中には海外バイヤーの姿が多数見られ、日本産食品への注目の高さを感じさせられる商談会となりました。

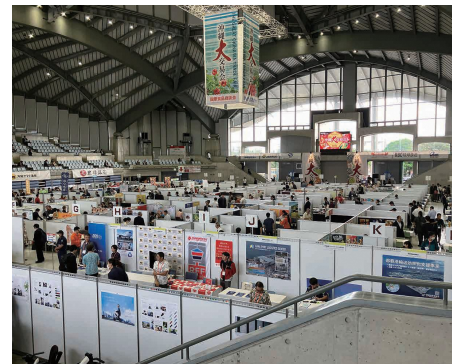
商談は、沖縄大交易会事務局の事前マッチングによるものを中心に、参加した3社合計で、2日間で30以上の商談を行い、多くが継続商談となりました。参加企業におかれましては、短期間で海外を含む多くのバイヤーと実りのある商談機会を持つことができたのではないかと思います。引き続き成約に向けてフォローに努めてまいります。

八戸市では、これからも海外販路拡大に取り組む企業のため商談機会を提供してまいりますので、皆様の御参加をお待ちしております。

文/八戸市商工課 くどう やまと
工藤 大和



海外バイヤーとの商談



会場内の様子

東南アジア、北米への販路拡大に関心のある八戸圏域内の事業者がおられましたら、
八戸市商工課(0178-43-9244)までお気軽にお問い合わせください。

ジェトロのサービスで 海外の活力を取り込んでみませんか

文／独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
青森貿易情報センター 所長 清川 裕志



初めまして。

9月末より青森に参りました。初めての青森の冬に驚きつつスキーに行ったり温泉を楽しんだりしています。

青森に着任するより前は東京本部で顧客管理などの業務をしており、その前には島根で島根県産品の輸出支援などに取り組んでいました。

さて、ジェトロをご存じでしょうか。国の予算で運営される、経済産業省所管の独立行政法人です。国内50事務所、海外76事務所あり、国内事務所の「貿易情報センター」は自治体との共同運営になっています。青森県では青森市役所向かい側に事務所があります。青森事務所では輸出や輸入に関するご相談にお応えしたり、海外事情について県内各地でのセミナーなどを通じての情報提供、海外のバイヤーや国内の輸出商社をお招きして県内各地で商談会を開催したりしています。また、海外のジェトロ事務所でご当地事情を聴くこともできます。これらすべて国と自治体の予算で賄われており、皆様は無料で使うことができますので、是非お気軽にご活用ください。

最近の事例をご紹介します。先日、マレーシアから食品バイヤーをお招きして八戸市内の企業を数社訪問しそれぞれ個別に商談を行いました。また、FOOD MATCH AOMORI 2024（あおもり食品展）に合わせて国内の輸出商社をお招きして輸出商談会を開催しました。これらは県内に居ながらにして、輸出の商談をしたり、輸出の可能性やその国で売るためにはどのようなパッケージがよいのかなどのアドバイスを直接聞いたりできる貴重な機会になっていると評判です。

また、すでに20か国以上に輸出されていますが、2024年に地理的表示(GI)として登録されたことを契機に「青森の黒にんにく」のさらなる輸出を黒にんにく協会と一緒に取り組んでいます。協会や組合のようにグループになった企業群の支援も行っています。

情報提供という視点では、ジェトロ青森独自の取り組みとして、「青森県の貿易」という冊子を毎年発行しています。これは県内事業者へのアンケートと、県内3つの税関の統計を合算し、重複を補正した上で算出したジェトロ青森独自の集計です。国の統計では出荷した県が分かるような仕組みになっていないので、こうした地道な作業が必要になってきます。国内でこうした集計を作成している県は数えるほどしかありません。この集計結果を

見ると、県内事業者がどういう国と何をどれくらい輸出入しているのかがわかる貴重な情報となっています。ホームページで公開しておりますので、是非活用してください。

「青森県の貿易」

<https://www.jetro.go.jp/jetro/japan/aomori/tradeinaomori.html>



貿易ではない支援も行っています。八戸では外国人技術者が船の設計をするなど活躍されているようです。ジェトロではこうした専門的な技術や知識を習得した外国人材、政府が「高度外国人材」と呼んでいる方々を雇用される企業の支援も行っています。留学生との出会いの場を創出したり、行政書士などの土業や外国人雇用に精通した専門家が企業に寄り添い外国人の採用前から定着までアドバイスしたりする支援です。

このようにジェトロ青森では様々な分野で様々なジェトロのサービスを組み合わせ、成長著しい海外の活力を取り込みさらに発展しようとする皆様のビジネスを応援しています。ほぼすべてが無料で使えるサービスですので、まずは安心安全なジェトロの無料サービスを使ってみてください。ホームページでご紹介もしていますが、種類が多くわかりにくい面もありますので、ジェトロ青森まで、ご一報いただければお話を伺い、適切なサービスをご提案いたします。

ジェトロのサービス <https://www.jetro.go.jp/services/>



最後になりますが、ジェトロ青森の取り組みやイベント情報をメールマガジンで配信しています。メールアドレスを入力するだけで簡単に登録できますので、是非登録してジェトロ青森の最新情報を入手してください。

https://www.jetro.go.jp/mreg2/magRegist/index.htm?mag_id=4130



独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
青森貿易情報センター
〒030-0802 青森市本町1-2-15 5階
Tel.017-734-2575

八戸港にクルーズ船が寄港

文／青森県港湾空港課 しらとり しょうへい
白鳥 昌平

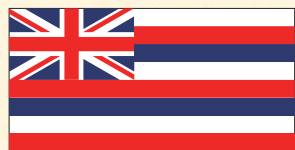
全国の港でクルーズ船寄港が拡大する中、八戸港には令和6年にクルーズ船が3回寄港しました。7月21日の「にっぽん丸」寄港時は、八戸市公式マスコットキャラクター「いかずきんズ」が出迎え、大漁旗などで歓迎。10月24日の「飛鳥Ⅱ」寄港時は、岸壁で地酒や新鮮なりんごの販売もあり、大勢の乗船客の皆様にお買い求めいただきました。

八戸港へのクルーズ船寄港数は、新型コロナ禍による令和2年～4年の寄港中断を挟み、年に3回前後で推移。邦船が中心でしたが、令和5年に初めての外国船「シーニック・エクリプス」が寄港しました。令和6年も外国船「ヘリテージ・アドベンチャー」と邦船「にっぽん丸」「飛鳥Ⅱ」がそれぞれ1回、八太郎P岸壁に寄港しています。

それぞれの船のお客様は、バスやタクシーで、種差海岸や無島、是川縄文館、八食センター、八戸市美術館など八戸市内の景勝地・観光地に出かけたほか、中には奥入瀬渓流や久慈市、青森市をめぐるコースもあり、北奥羽エリアを満喫していただきました。



7月21日にっぽん丸寄港時



ハワイバイヤー招へいの商談会

文／独立行政法人日本貿易振興機構（ジェトロ）
青森貿易情報センター かがみ こうだい
鏡 功大

ジェトロ青森では県内事業者の輸出・海外展開を支援すべく輸出に関する情報提供やバイヤーとの商談機会の創出など様々なサービスを提供しています。通常のサービスに加えて、その他様々な外部環境の変化やトレンドを考慮しながら、柔軟かつ戦略的に事業運営を行っています。

今回、ALPS 処理水の海洋放出に伴い、中国など特定国による水産物等の輸入停止措置により大きな影響を受けている水産物等の輸出先の多様化を図るため、2024年10月16日にハワイより4名のシェフ、日本産水産物を取り扱うインポーター1社を青森県に招へいし八戸ポータルミュージアムにて調理デモ、試食会・歓迎レセプション、商談会を実施しました。調理デモでは青森県内事業者から提供された水産物（ホタテ、ズワイガニ、しめ鯖、イカなど）を用いて各シェフによる創作料理が作られました。その後の試食会・歓迎レセプションでは県内事業者をはじめ、八戸市関係者など多くの人が参加し、シェフの創作料理を食べながらネットワーキングが行われました。

商談会では事業者6社が参加し、各事業者がブースに座りシェフ、インポーターがそれぞれ回遊する形で商談を実施しました。参加事業者からは「青森県産品を使用したトップシェフのアレンジ料理は非常に斬新」、「ハワイのトップシェフがどのような食材やシーフードを使用しているのか、またハワイの消費者の嗜好を知る貴重な機会となった」などのお声が寄せられました。

担当者としてはハワイのシェフによる調理デモを実施したのは良かったと感じています。一方で商談会の時間を十分に確保できなかった点もあるので次回以降の反省点として受け止めています。

ジェトロ青森では引き続きバイヤー招へいや商談会などの事業を実施していく予定です。輸出に興味をお持ちの事業者がいらっしゃいましたらお気軽にお問い合わせください。



県産食材を使った料理とハワイのシェフ達



ハワイバイヤーとの商談

ワインの 魅力と魔力 その現場からの 報告

文 / 八戸市海外経済協力員
マスターソムリエ たかの ゆたか
高野 豊

私は農業系ソムリエと呼ばれ、ワイナリーの立ち上げや、また農産物のブランド化に数多くかかわってきました。ワインは人に夢を与え、地域活性化にも効果があります。地域に光と希望を与えるワイン。その限りない魅力が時として魔力となり、人や行政さえも狂わせることがあります。今回は、その魔力で人・地域にどのような影響を与えているのか現場からの報告です。

ワインの素晴らしさが人生を変える

ワインは先進各国でブランド化が進み、産地や品質、醸造理論が確立し、香りや味わい深さを体験し、そのおいしさや、物語に酔う飲み物として親しまれています。知れば知るほど興味が増し、ブドウ栽培現場の見学や、収穫体験をするうちに、ブドウ栽培とワイン醸造が夢と希望に満ち溢れた事業に見え、時として安定した生活と決別し、ブドウ栽培やワイン醸造家の道を選択する人もいます。崇高な理想を描き、誰もが憧れる将来像を作らせるワインの魅力と魔力は、多くのワイン好きの人生を変えつつあります。

現状の生活を捨て、退職金を投入し、借金でブドウの苗や農場を確保しても、その後2～3年はほぼ無給の日々、さらに数年間は時給700円にも満たない生活が始まりますが、崇高な理想は新規の栽培家や醸造家の厳しい現状を美化してしまいます。

資金がある実業家によるワイナリーの立ち上げや買収が、各地で見られますが、それと比べ資金力がない場合は、余力が無い状態で数年間耐えなければなりません。ワインは夢を与えますが、夢の実現には日常生活と資金について、冷静な判断が必要です。

ワインの魅力と魔力にマスコミが踊り 生産者は記事に舞い上がる

ワイン記事のライターは、読者の関心を引くため新規のワイナリーを探し求めます。そして「すべてに決別してブドウを栽培し、ワイナリーを立ち上げる」というスタイルを美談として紹介し、その読者がワイナリーの見学に訪れます。資金面や自然環境の厳しさについて書かれる記事は少なく、夢を追い、生産量が少ない幻のワイン生産者として紹介され、さらに見学者の誉め言葉に酔ってしまいます。財務や栽培、品質について正確な知識を持たないまま、自分の道は正しかったと確信し、有名な栽培家・ワイナリーになったと誤解するケースが各地で散見され、その誤解は、専門家の意見にすら耳を貸さないという状況につながっていきます。

ワイン特区の功罪、ワインに舞い上がる地方行政、 ワインに踊る金融機関

小規模醸造で地域を活性化という国の方針のもと誕生したワインの特区認定地域では、少量の醸造規模であってもワイン醸造免許が交付されます。特区扱いの免許は少量生産で、財務的な規模が小さく、他に収入がないと給与や諸経費の支払い、設備の更新等、企業の存続が厳しい状況になります。健全なワイナリー経営には、最低2haの畑、借入金も含め2億円の資金が必要との試算もあり、創業から7年前後は、経営を維持できる余力がないと厳しいとされており、より小規模である場合が多い特区のワイナリーは、リスクが大きいと思われる。特区のワイナリー設立は、夢を描く人への免許交付というケースが多く、財務的な裏付けまで深く精査することは厳しい現状にあると思われる。

そのような中、全国各地には行政主導のワイン醸造やブドウ栽培の研修所等が組織され、多くは醸造と栽培に重点を置く一方、マーケティングや会社運営等についての研修はあまり行われていません。将来ワイン用ブドウ栽培家・ワイン醸造家として独立する場合、経営計画や組織運営を知る必要性があり

ますが、この部分が手薄のまま研修生を卒業させていくのが現状です。

また、銀行においても、近代的な農業部門への融資が目立っていますが、専門知識に欠け、融資についての確かな判断ができない状況にあります。加えて、「これは」という事業は少ないため、新規ワイナリー立ち上げの情報が入ると積極的な融資が展開されます。ワインの売価設定が一本3千円という高額で非現実的なワイナリー立ち上げの企画書であっても多くの融資が実行され、ワイン関連というだけで、精査されずに融資が実行される現状があり、ワインの魅力と魔力に翻弄される行政や金融機関の姿があります。

最も必要なものについての誤解

ワイナリーを立ち上げる時に最も必要なものについて順番をつけるとすると次のとおりです。

- 1 確実に一定量を買ってもらえる相手
- 2 資金力
- 3 経営センス
- 4 気候土壌などの地域特性と物語性
- 5 ワインの醸造技術
- 6 ブドウの栽培技術

この順番でワイナリーの設立を目指すべきところ、多くの場合は栽培や醸造から研修をはじめ、最後に売り先を探すという状況にあります。ブドウは植えてから5年、10年と経過するにしたいが飛躍的に収穫量が増え、生産ワイン本数が増えていきます。ワイナリー設立当初は、生産量も少なく幻のワインとして完売しますが、木の成長とともに生産量は飛躍的に増え、売り先を探さなければならなくなります。売り先と資金力が安定していれば、醸造・栽培は、専門家を雇うことで解決します。

「安定した得意先の確保」と「十分な資金量」、それに加え「経営者としてのセンスと豊かな感性」が、ワイナリーの健全な運営の基礎であり、ワイナリーの設立前にチェックすべきはこの三点ですが、多くの場合、技術論から入ってしまいます。それはワインの魅力の多くがブドウ栽培の技術や醸造方法に隠されているからで、知れば知るほど奥深いワインの技術論には多くの魅力と魔力が潜んでいます。

それでもワインの魅力は魔力を超える

ワインには、飲んで酔うだけでなく、香りや味わいの深さ、料理との組み合わせ、独特の気象条件や土壌に加え、創業に至る歴史など数多くの物語がある物語性、自然科学や農業、食文化といった歴史、発酵学などの学問的な窓口になることなど、日常生活を豊かにする様々な魅力があります。ワインの魔力について冷静に見つめながらも「やはりワインは素晴らしい」という結論に至ります。

魅力があるからこそ裏側に潜む魔力

ワインの魅力と魔力は表と裏、紙一重です。

フランスが作り出したソムリエという職業は「カッコいい」という印象を与え、それがワインの洗練されたイメージの一旦を担っています。「ワインの魔力に取りつかれてみたい」と言わせてしまうほどの魅力を持つワイン。ワインを取り扱うソムリエとして、常に熱く取り組みながら、時にはクールに見つめていきたいと思います。

八戸港コンテナ定期航路就航状況 (2024年12月現在) ■ 外航 ■ 国際フィーダー ■ 国内航路

| コンテナ航路 | 船社名(日本総代理店) | 集荷代理店 | 寄港間隔 | 寄港地 |
|-------------------|----------------|----------------------|------------------------|---|
| 中国・韓国航路 (共同配船) | 南星海運(株) | 八戸港湾運送(株) | 週1便 (月) 共同配船 | (NCQ 航路) 青島→大連→釜山→新潟→秋田→苫小牧→ 八戸(月) →仙台→常陸那珂→釜山新港→ 釜山→蔚山→光陽 |
| | 高麗海運(株) | ナラサキスタックス(株) 八戸支店 | | |
| 韓国航路 (協調サービス) | 長錦商船(株) | 八戸通運(株) | 週2便 (日・月) 協調サービス | (THS2 航路) 釜山新港→仙台→ 八戸(月) →苫小牧→石狩→ 舞鶴→境港→釜山→釜山新港→清水→ 鹿島→常陸那珂→仙台→ 八戸(日) →苫小牧→ 酒田→釜山→釜山新港 |
| | 興亜LINE(株) | 北日本ポート サービス(株) | | |
| 北米航路 | Swire Shipping | 八戸港湾運送(株) | 休止中 | — |
| 国際フィーダー 航路 | (株)横浜コンテナライン | 八戸通運(株) | 週1便(金) | 横浜→苫小牧→八戸(金)→釜石→仙台→横浜 |
| | 井本商運(株) | 八戸港湾運送(株) | 週1便(土) | 横浜→東京→八戸(土)→釜石→横浜 |
| | 鈴与海運(株) | 八戸通運(株) | 週1便(火) | 横浜→東京→八戸(火)→苫小牧→横浜 |
| 国内航路 | 鈴与(株) | 八戸港湾運送(株) | 月1便 | 清水→市原→大船渡→八戸→苫小牧→函館 |

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短) (2024年12月現在)

| 寄港地 | 輸出 | 輸入 |
|----------|----|----|
| 釜山(韓国) | 5 | 5 |
| 光陽(韓国) | 8 | ※ |
| 蔚山(韓国) | 7 | ※ |
| 基隆(台湾) | 13 | 10 |
| 台中(台湾) | 14 | 10 |
| 高雄(台湾) | 17 | 12 |
| 香港(中国) | 13 | 13 |
| 大連(中国) | 12 | 7 |
| 青島(中国) | 11 | 9 |
| 上海(中国) | 13 | 10 |
| 天津新港(中国) | 13 | 12 |
| 寧波(中国) | 12 | 10 |

| 寄港地 | 輸出 | 輸入 |
|-------------------|----|----|
| 蛇口(中国) | 13 | 15 |
| シンガポール | 19 | 18 |
| レムチャパン(タイ) | 17 | 18 |
| マニラ(フィリピン) | 16 | 13 |
| ホーチミン(ベトナム) | 13 | 13 |
| ハイフォン(ベトナム) | 13 | 15 |
| タンジュンプリオク(インドネシア) | 19 | 13 |
| ムンバイ(インド) | 31 | 37 |
| ポートクラン(マレーシア) | 20 | 22 |
| ドバイ(UAE) | 34 | 39 |
| タコマ(米国西岸) | 27 | 34 |
| ロングビーチ(米国西岸) | 25 | 27 |

| 寄港地 | 輸出 | 輸入 |
|------------------|----|----|
| シアトル(米国西岸) | 27 | 34 |
| ニューヨーク(米国東岸) | 53 | 58 |
| バンクーバー(カナダ) | 28 | 32 |
| ブリスベン(オーストラリア) | 28 | 24 |
| オークランド(ニュージーランド) | 35 | 30 |
| サウサンプトン(イギリス) | 50 | 50 |
| ルアーブル(フランス) | 40 | 50 |
| ブレーメルハーフェン(ドイツ) | 45 | 45 |
| ハンブルク(ドイツ) | 45 | 50 |
| ロッテルダム(オランダ) | 41 | 42 |
| アントワープ(ベルギー) | 50 | 55 |

※光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまどめた後に輸入されます。

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

海貨業者

- ◆八戸通運株式会社 海運部
(株)シノコー成本、(株)横浜コンテナライン 集荷代理店
TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281
- ◆八戸港湾運送株式会社 営業部 港湾物流課
(南星海運ジャパン(株)、
スワイヤー・シッピング・プライベート・リミテッド(SWIRE SHIPPING)、
井本商運(株)、鈴与海運(株)、
オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)日本支社、
インターエイシアライン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-29-3177 FAX:0178-29-3118
- ◆新丸港運株式会社 営業部
TEL:0178-20-2325 FAX:0178-20-2356
- ◆八戸運輸倉庫株式会社 営業部
TEL:0178-28-2401 FAX:0178-28-6976
- ◆三八五流通株式会社 八戸区域事業所
TEL:0178-52-7755 FAX:0178-52-7751
- ◆日本通運株式会社 八戸支店
TEL:0178-20-3040 FAX:0178-20-3154
- ◆ナラサキスタックス株式会社 八戸支店
(高麗海運ジャパン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-21-6000 FAX:0178-21-6050
- ◆北日本ポートサービス株式会社
(SITC JAPAN(株)、興亜LINE(株) 集荷代理店)
TEL:0178-20-2148 FAX:0178-29-3130

海運会社(国内総代理店)

- ◆南星海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-5843-6100 FAX:03-5843-6110
- ◆高麗海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-3500-5051 FAX:03-3500-5095
- ◆株式会社シノコー成本 【東京都】 韓国航路(長錦商船(株)) TEL:03-6278-6032 FAX:03-6278-6038
(興亜LINE(株)) TEL:03-3273-4981 FAX:03-3281-8605
- ◆センワマリタイムエージェンシー株式会社 北米部 【東京都】 SWIRE SHIPPING: 北米航路
TEL:03-5733-7203 FAX:03-5733-7208
- ◆株式会社横浜コンテナライン 【横浜市】 国際フィーダー航路(横浜)
TEL:045-227-8863 FAX:045-681-8885
- ◆井本商運株式会社 【神戸市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:078-322-1600 FAX:078-322-1620
- ◆鈴与海運株式会社 【静岡市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:054-354-3100 FAX:054-354-3102
【東京営業所】 TEL:03-3432-7159 FAX:03-3432-0896
- ◆鈴与株式会社 【静岡市】 国内定期航路(清水・苫小牧)はこ廻船東廻り航路
TEL:054-365-1348 FAX:054-365-1311
- ◆オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)
日本支社【東京都】 インド・東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
- ◆インターエイシアライン株式会社 【東京都】 東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
- ◆SITC JAPAN株式会社 【東京都】 中国・アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-6262-7778 FAX:03-6262-7117
- ◆オーシャンネットワークエクスプレスジャパン 【東京都】(横浜港/釜山港トランシップ)
TEL:050-1745-0302(アジア・オセアニア向け) 050-1745-0524(アジア・オセアニア向け以外)
- ◆ジャパン・パン・ライズ株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出)
TEL:03-6779-9610 FAX:03-6779-9650
- ◆イーキューワールドワイド株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出入)
TEL:03-5643-3600 FAX:050-3153-1658



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

事務局 / 八戸市商工労働まちづくり部商工課 貿易・物流対策グループ
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階 TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2146
E-mail) hppc@hachinohe-port.org (ホームページ) https://hachinohe-port.org/

